

がん看護学実習 I

単位数：2単位

時間数：90時間

開講年次及び学期：1年次後期

○若崎淳子	臨床看護学講座	教授	
福田誠司	臨床看護学講座	教授	
秋鹿都子	臨床看護学講座	准教授	
上田恵巳	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
奥野梨沙	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
山崎かおり	鳥取大学医学部附属病院看護部		がん看護専門看護師
加藤由希子	松江赤十字病院看護部		がん看護専門看護師

1. 科目の教育方針

卓越したがん看護実践能力を開発することを目標とする。複雑な健康問題をもつがん患者とその家族に対して質の高い卓越した看護を提供するために、ケアとケアの統合による専門的知識と的確な臨床判断、直接的ケアの習熟化を目指す。看護実践の中で理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。がん看護実践上にある複雑で解決困難な問題をもつ事例を取り上げ、その解決方法を検討する(3事例程度)。また、実習期間中に実習指導者や教員参加のカンファレンスを企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、臨床判断能力や看護援助の質を高める。がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発すると共にチーム医療が十分に機能し活性化するためのがん看護専門看護師として機能を考え、役割開発について考察する。

2. 教育目標(実習目標)

- 1) がん患者を全人的に理解し、患者の体験や患者を取り巻く現象を論理的に説明する。
- 2) 複雑で解決困難な問題をもつがん患者とその家族に対して、治療・療養過程における問題解決のために、専門的知識と的確な臨床判断に基づく質の高い直接的ケアを実践する。
- 3) 理論と実践の確認を図りながら、がん看護専門看護師としての基礎的な態度、判断力、実践力を身につける。
- 4) がんチーム医療が十分に機能し活性化するために、専門看護師の立場から問題解決能力や調整力、指導力を身につける。
- 5) 実習を通して、がん看護専門看護師としての活動や姿勢、がん看護実践における変革推進者としての機能を考え、役割開発について考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 地域がん診療連携拠点病院で行われているがん看護実践を学び、がん看護専門看護師に必要な卓越したがん看護実践能力を習得する。実習場所は、病棟及び外来(看護専門外来、外来化学療法室他)とする。がん医療における地域連携の実際を視野に入れた学習を行なう。
- 2) がん患者とその家族を取り巻く状況を実際的に理解し、がん看護専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の視点からがん看護実践上の課題を探究する。
- 3) 実習生は実習に先立ち、指導教員の指導を受けながら下記5.の授業計画の内容を含む実習計画を策定し臨地で実習展開する。
- 4) 授業への臨み方

- ・課題研究に結び付けられる課題を見出すことができるように、目的意識や問題意識をもって実習に取り組むこと。
- ・実習に臨むにあたり病態生理や治療法に関する知識と最新情報を熟知し理解しておくこと。
- ・実習に臨むにあたり看護過程展開能力を高めておくこと。

5) 実習施設

鳥取大学医学部附属病院
松江赤十字病院

6) 実習時期

1年次後期 12～1月のうち10日間

7) 評価

実習の目的目標に沿って、がん看護専門看護師の役割機能の習得と目標達成度を次の内容により総合的に評価する。

- (1) 実習計画書
- (2) 実習期間中に提出される実習記録の内容
- (3) 受け持ち患者に係る看護過程展開状況
- (4) 困難事例の検討
- (5) 課題レポート
- (6) カンファレンスや事例検討会等における企画・討議参加状況
- (7) 出席状況：原則として実習時間のすべてに出席すること
- (8) 実習への取り組み姿勢

*実習は原則2単位90時間であるが、到達目標に達しない場合や実習内容が不足していると単位認定者が判断した場合には実習期間の延長または追加的な実習を行うこととする。

4. 使用テキスト、参考文献等

実習の手引きを別途示す。

5. 教育内容

- 1) 全人的視点からがん患者とその家族を理解し、理論やモデルを用いて説明する。
- 2) 受け持ち患者について、がんの病態・治療、がん看護に関する専門的知識に基づき多面的にアセスメントを行なう。適切な臨床判断を踏まえて明確化した看護上の問題について根拠に基づく計画を立案し、実施・評価する。特に、複雑で解決困難な問題をもつ事例に対してその解決方法を検討し、効果的な看護介入を行なう。
- 3) 看護チームと連携を取りながら、協働的姿勢をもって受け持ち患者のケアに参画する。
- 4) 実習期間中に実習指導者や指導教員参加のカンファレンスを主体的に企画し事例検討を行なう。必要に応じて、医師や看護師等の医療関係者に参加を依頼する。参加者との討議を通して、学生の臨床判断能力、看護援助の質を高める。
- 5) がん看護実践における変革者としての機能を考え、がん看護専門看護師としての自己の課題を整理する。
- 6) 変化する社会と医療・看護の状況の中で、がん看護専門看護師の役割開発について考える。
- 7) がん看護領域における自己のサブスペシャリティを開発する。焦点をあてる領域(サブスペシャリティ)において、がん患者とその家族の抱える看護上の問題に対して卓越した直接的ケア能力を習熟する。